

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【公開番号】特開2002-293991(P2002-293991A)

【公開日】平成14年10月9日(2002.10.9)

【出願番号】特願2001-95695(P2001-95695)

【国際特許分類】

C 0 8 L 9/00 (2006.01)

C 0 8 L 83/06 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 9 D 109/00 (2006.01)

C 0 9 D 183/06 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/54 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 9/00

C 0 8 L 83/06

C 0 8 L 101/00

C 0 9 D 109/00

C 0 9 D 183/06

C 0 9 D 201/00

C 0 8 K 5/54

【手続補正書】

【提出日】平成18年7月28日(2006.7.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

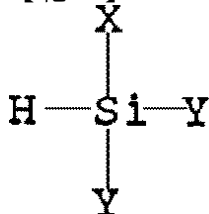
【請求項1】 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体よりなる群から選択される物質と、重合体主鎖及び複数のオレフィン性基を有するループ重合体であって、該オレフィン性基が、それと反応性の二官能性有機化合物との反応によって閉ループに変換されており、しかも、ループを形成しているオレフィン性基が主鎖内に存在しても及び／又は重合体主鎖からペンダントしてもよいことからなるループ重合体と、少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋用化合物とを含む新規な水分硬化性重合体組成物。

【請求項2】 重合体主鎖がポリブタジエンである請求項1記載の組成物。

【請求項3】 ヒドロキシル基で停止されたポリシロキサンを追加的に含む請求項1記載の組成物。

【請求項4】 珪素架橋用化合物が、一般式

【化1】



〔式中、Xは加水分解性基であり、そしてYは置換若しくは非置換アルキル、置換若しくは非置換アリール、又は加水分解性基のいずれかであってよい〕を有する請求項1記載の組成物。

【請求項5】 加水分解性基がクロル、アルコキシ又はアシルオキシである請求項4記載の組成物。

【請求項6】 室温で硬化可能である請求項1記載の組成物。

【請求項7】 ポリジオレフィンが100,000までの分子量を有する請求項1記載の組成物。

【請求項8】 ポリジオレフィンが100,000までの分子量を有するポリブタジエンである請求項1記載の組成物。

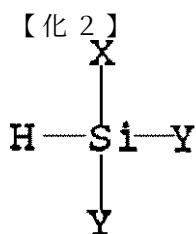
【請求項9】 $-17.8 \sim 37.8^{\circ}\text{C}$ の温度で硬化可能である請求項1記載の組成物。

【請求項10】 (a) 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体、及び

(b) 少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋性化合物、を含む新規な水分硬化性重合体組成物。

【請求項11】 加水分解性基で停止されたポリシロキサンを追加的に含む請求項10記載の組成物。

【請求項12】 架橋剤が、一般式



〔式中、Xは加水分解性基であり、そしてYは置換若しくは非置換アルキル、置換若しくは非置換アリール、又は加水分解性基のいずれかであってよい〕を有する請求項10記載の組成物。

【請求項13】 加水分解性基がクロル、アルコキシ又はアシルオキシである請求項10記載の組成物。

【請求項14】 $-17.8 \sim 37.8^{\circ}\text{C}$ の温度で硬化可能である請求項10記載の組成物。

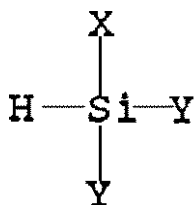
【請求項15】 (a) 重合体主鎖及び複数のオレフィン性基を有するループ重合体であって、該オレフィン性基が、それと反応性の二官能性有機化合物との反応によって閉ループに変換されており、しかも、ループを形成しているオレフィン性基が主鎖内に存在しても及び／又は重合体主鎖からペンダントしてもよいことからなるループ重合体、及び

(b) 少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋性化合物、を含む水分硬化性重合体組成物。

【請求項16】 加水分解性基で停止されたポリシロキサンを追加的に含む請求項15記載の組成物。

【請求項17】 架橋剤が、一般式

【化3】



〔式中、Xは加水分解性基であり、そしてYは置換若しくは非置換アルキル、置換若しくは非置換アリール、又は加水分解性基のいずれかであってよい〕を有する請求項11記載の組成物。

【請求項18】 加水分解性基がクロル、アルコキシ又はアシルオキシである請求項15記載の組成物。

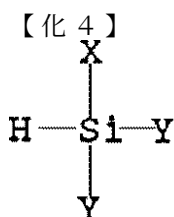
【請求項19】 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体よりなる群から選択される物質と、重合体主鎖及び複数のオレフィン性基を有するループ重合体であって、該オレフィン性基が、それと反応性の二官能性有機化合物との反応によって閉ループに変換されており、しかも、ループを形成しているオレフィン性基が主鎖内に存在しても及び／又は重合体主鎖からペンダントしてもよいことからなるループ重合体と、少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋用化合物とを含む水分硬化性重合体組成物を水分に暴露して架橋させることを包含する方法。

【請求項20】 ポリジオレフィンが100,000までの分子量を有する請求項19記載の方法。

【請求項21】 ポリジオレフィンが100,000までの分子量を有するポリブタジエンである請求項19記載の方法。

【請求項22】 加水分解性基で停止されたポリシロキサンを追加的に含む請求項20記載の方法。

【請求項23】 架橋剤が、一般式



〔式中、Xは加水分解性基であり、そしてYは置換若しくは非置換アルキル、置換若しくは非置換アリール、又は加水分解性基のいずれかであってよい〕を有する請求項19記載の方法。

【請求項24】 加水分解性基がクロル、アルコキシ又はアシルオキシである請求項23記載の方法。

【請求項25】 架橋が-17.8～37.8℃の温度で実施される請求項19記載の方法。

【請求項26】 架橋が室温で実施される請求項19記載の方法。

【請求項27】 (a) 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体よりなる群から選択される物質、及び

(b) 少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋用化合物、を含む水分硬化重合体組成物を水分に暴露して架橋させることを包含する方法。

【請求項28】 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体よりなる群から選択される物質と、重合体主鎖及び複数のオレフィン性基を有するループ重合体であって、該オレフィン性基が、それと反応性の二官能性有機化合物との反応によって閉ループに変換されており、しかも、ループを形成しているオレフィン性基が主鎖内に存在しても及び／又は重合体主鎖からペンダントしても

よいことからなるループ重合体と、少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋用化合物とを含む水分硬化重合体組成物からなる密着性被覆を有する基体。

【請求項29】 架橋が室温で生じる請求項28記載の基体。

【請求項30】 架橋が $-17.8 \sim 37.8^{\circ}\text{C}$ の温度で生じる請求項28記載の基体。

【請求項31】 基体が船体である請求項28記載の基体。

【請求項32】 ポリジオレフィンが100,000までの分子量を有する請求項28記載の基体。

【請求項33】 (a) 重合体主鎖又はペンダント側鎖のいずれかにオレフィン性不飽和を有するポリジオレフィン重合体よりなる群から選択される物質、及び

(b) 少なくとも1つの易加水分解性置換基及び少なくとも1つのヒドリド置換基を有する珪素架橋用化合物、
を含む水分硬化重合体組成物からなる密着性被覆を有する基体。